

## 議事要旨(5) 金融商品専門委員会における検討状況（IASB減損対応）について

冒頭、加藤副委員長（専門委員長）より、金融商品専門委員会におけるIASBによる補足文書「金融商品：減損」（以下「SD」という。）に対するコメントの検討状況等について説明がなされた。また、神谷専門研究員より、審議事項(5)に基づき、事務局のコメント案について説明がなされた。

説明の後、委員等からの主な発言及び事務局からの説明は以下のようなものであった。

- あるオブザーバーから、質問 1 に関して事務局から提示されている減損モデルの 2 つの代替案について、代替案 1 を押す理由の 1 つに、当初の IASB の公開草案に対する ASBJ のコメントレターとの整合性を挙げているが、これを理由とすべきではないこと、相対的には代替案 2 を選好するが、代替案どおりでは、損失が後の期間ほど大きくなると予想される場合、早期に損失を認識するという考え方に反してしまうことから、代替案 2 にも、残存年数の予想損失平均と near-term の予想損失を比較して大きい方を損失計上するという比較プロセスが必要ではないか、との発言があった。
- ある委員から、同じく質問 1 に関して、通常はほとんどが正常先債権と考えられるグッドブックのオープン・ポートフォリオに、複雑な測定方法を持ち込むことに懸念を持っており、代替案 1 は higher of test の概念が残ることと、「早期に損失が発生するパターンの証拠」の解釈に関する比較可能性の担保について懸念を有するため、相対的に代替案 2 を選好すること、さらに、代替案 1 を提案し代替案 2 を付言とする形式については専門委員会で議論されていなかったと認識しているので、専門委員に再度確認し判断すべきであるとの発言があった。これに対して事務局からは、2 つの代替案の位置付けについては本日の本委員会の意見を踏まえて専門委員に照会する手続きを取る旨の回答がなされた。
- ある委員から、同じく質問 1 に関して、将来の予想損失を過去の経過期間を考慮して計算することは企業のリスク管理の実感に合わないため、代替案 2 を選好するとの発言があった。
- ある委員から、質問 2 に関して、補足文書の B1 項の記述との関係で、ポートフォリオ間やオープン・ポートフォリオから個別資産への振替により、操作性が働かないか懸念している旨の発言があった。これに対して事務局からは、ポートフォリオによる管理はグッドブックに対してより適切な概念であり、オープン・ポートフォリオでスタートした資産が、グッドからバッドに変わっていく場合は、結果として債務者単位のきめ細かな管理がなされることはあると考えられるが、資産がオープン・ポートフォリオから個別資産に振り替わることはないという旨の回答がなされた。

以上